

# 「旅行に行こう！」

赤松 咲

休日や長期休みを利用して旅行に行く人は少なくない。旅行のために仕事を頑張り、また世界を旅行しながら生活しているひともいる、かつての私は以上のような人々とは異なり“インドア派”で「旅行行きたいね～」といいながらも、飛行機や宿の手配すら面倒くさがり、結局は家でダラダラ過ごすというのが常であった。そんな私が今回、長期休み（中国語で“寒假”）を利用して太原を離れ、あらゆる場所に旅行に出かけてきた。その一部分を紹介したいと思う。

## ① 平遥古城 (ping yao gu cheng)

世界遺産にも登録されている有名な観光地。城西都市で周りが城壁に囲まれている。太原から“高铁”（高速鉄道）で往復50元（日本円約1000円）で行くことができる。城の中には平遥特産物の牛肉が、その他にも美味しい料理、また民族チックなアクセサリーや衣装などのお土産が売られている。



## ② 丽江 (li jiang)

雲南省の首都昆明から火车（中国の電車）でおよそ8時間。これも①の平遥と同じく古城であるが、雰囲気はそれぞれ異なる。城の内部には美しい

河が流れており、せせらぎや鳥の鳴き声楽しむことができる。城を抜けた高い丘に上がるとそこが大きな山々に囲まれていることがわかり、赤くノスタルジックに輝く夕日を見たときには心が奪われそうになった。



### ③ 上海 (shang hai)

中国らしさと洋風さが混じった何とも面白い都市。“南京路”という大きなごちゃごちゃしたショッピング街には、なまこの乾燥させたものや燕の巣などの（奇妙な見てて楽しい）食品がある。また“外滩”という水辺では（通行料の高い観光者向けの高い船に乗らなくとも）通勤者が使う船（約5元、日本円約100円）で上海の夜景を楽しむことができる。また、小小籠包が有名。



### ④ 成都 (cheng du)

四川省の首都。雰囲気は中国の他の都市とは異なり、ゆったりしている。公園を散歩していると、人々はお茶を飲みながらおしゃべりしていたり、太極拳やダンスを踊ったりしている。どこからとなくヴァイオリンの音が

聞こえたり、耳かき掃除屋がいたりと中国の「味わい」を堪能できる。また街を歩いていると多くの藏族民族（チベット族）の文化がみられる。仏教用具、袈裟の専門店、チベット料理店などがたちならび、道には（フツーに）お坊さんが歩いている。なんともユニークな私の最も好きな都市である。



以上、一部分ではあるが紹介をしてきた。旅行の醍醐味は人それぞれであるが何と云っても「出会い」「縁」（中国語で缘分 *yuan fen*）ではないだろうか。今回の旅行で出会った多くの中国人との交流は私の人生において大きな意味を持ち、彼らから学んだことは数えきれない。インドアだった私も今ではアウトドアの人間になってしまった。人と交流したい、新しい場所に行ってみたいという気持ちでいっぱいだ。中国は広い。紹介にあげたもの以外にも魅力的な場所が沢山ある。次回の旅行にはぜひ中国、おすすめです。

2015/03/10